

サービス種別	貴事業所の所在地域の特性をどう捉えているか、できるだけ細かく教えてください。	地域の特性を生かし、ご利用者のために行っているサービスはどのようなものがありますか。特に、貴事業所ならではの特徴を出しているところがあれば教えてください。	小規模施設の特性を活かしてご利用者のためにきめ細やかにしている工夫があれば教えてください。	地域密着型サービスとして地域に働きかけていることを記載してください。また、今後実施してみたいと考えていることがありましたら、教えてください。(例 避難訓練、炊き出し等)	
				既に実施していること	今後実施してみたいこと
	自然が豊かな場所であり、季節を体で感じることができる。山の中にある施設なので坂道が多く、住宅街からは少し離れている。また地域の行事も多い。地域の方々も気さくで散歩をしていると入居者に声をかけてくださる。地域の行事にも参加させてもらっている。	コロナ前は地域の行事、サロンに参加していた。現在は毎日、施設周辺を散歩している。	利用者の気持ちに寄り添い、ここ(施設)にいることの生きがい、喜びを感じてもらえるようにしている。毎日一人ずつの役割を作り、「ありがとう」の言葉をかけてもらい、存在の意味、達成感を得られるようにしている。	夏祭りに子供たちへのお菓子の提供	以前のように地域の行事に参加したい。
	新興住宅街であり、新しい方の居住が多くある地区だと思われる。一方、古くからの(主に農家)の方も共存している感じを受ける。高齢者独居及び高齢者のみ世帯は比較的小さい地域(民生委員からの聞き取りにて)でもある。	地域商業施設への買い物 地区の盆踊り等への参加 但しコロナ禍以前であり、現在はしていない。	少人数を限定している職員が介護しており、馴染みの顔を大切にしている。また、各個人を尊重し、一律的な介護(時間や曜日等にかかわらず)にならないように気を配っている。	運営推進会議	避難訓練 行事への参加の促し 災害時の協力体制の構築
	利用者様とご家族とそこの地域の方々がとても深く結びついてみえるので、その地域の行事に参加させて頂き、その地域の図書館に通いその地域の方々に遊びに来て頂くという、まさに密着した関係性を保っている。	地域の病院への受診、公園の散歩、近場への買い物同行など。小学校の地域運動会には職員がお手伝いに行き、利用者が参加しています。	馴染みの美容院や床屋に同行したり、往診ではなく、馴染みの病院に同行する支援を行っている。	避難訓練、神社の清掃、運動会や行事(輪くぐり・盆踊り等)への参加。 ボランティアの受入れ。	救急救命・AEDの訓練(地域の指導員による)
入所・居住系サービス	事業所が位置する北里圏域の中の多気地区は、介護事業所がこれまでなく、令和5年4月に開設する前に近隣挨拶まわりをした際も初めて介護保険事業所ができるという事で地域の方々にも興味をもっていただいていると認識している。	開設したばかりでこれからではありますが、まずは地区の方々を知っていただくため、北里小学校区地域協議会に参加しております。月1回地域の区長様、民生委員様はじめ、地域の方々との話し合いに出席し、所属する福祉部会では、北里小学校生徒さん向けの「認知症サポーター養成講座」に協力予定。また、地区のお一人暮らし高齢者へ花鉢のプレゼント企画を予定しており、協力しております。事業所の特徴を出すまではいっていませんが、何かの形で協力できると良いと考えている。	個々の希望を伺い、近隣の散歩や、日用品や嗜好品の買い物を個別で対応している。	北里小学校区地域協議会に所属し、地域の方との協働での活動に参加協力している。 ・北里小学校生徒向け「認知症サポーター養成講座」 ・一人暮らし高齢者への花鉢プレゼント(小学校生徒さんのメッセージ付き)	・地域の方との事業所での協同活動(レクリエーションなど)
	地域密着型特別養護老人ホームとして、馴染みの地域に住み続けることを特色に運営しています。施設入居することは、誰しもが望んでいないことを前提に、ご家族も積極的に入居させた方もいないと思います。施設入居すること＝管理規則に捉われた生活を送ることと同義に捉えているのが世情だと思えます。ユニットケアの手法を取り入れ、出来るだけ本人らしく、その方の暮らしを施設に入居しても継続して送ることを支援する。私たちだけのチカラでは事足りず、ご家族の協力もあってその人らしく暮らし続けることを支援しています。また、運営の特色を理解及び共感頂いている入居出地区の皆さまには、いつも温かく見守って頂き、住み慣れた地域での暮らしに協力頂いております。区長、民生委員の方が介護福祉について積極的に学び活動されていることから、地域の繋がりを大切にしたい地域のひとつと捉えております。	地域密着型特別養護老人ホームの特性を生かし、ご家族の来訪を呼びかけ、たとえ施設に入居したとしても、ご家族との関りは変わらず、また出来るだけご家族の役割を保証し、入居者本人の暮らしを支えています。また、施設内だけに留まらず、地域行事への参加や地域のお店へ訪問するなど、地域との社会的関係も継続することにも努めています。但し、ここ3年についてはコロナ禍ということもあり、その特性を十分に活かすことができずこなかったのが実情である。今年度から、区内の行事も再開し、当事業所においても家族会を開催し、改めてユニットケアの手法を用いたユニット型特別養護老人ホームの運営の在り方をご家族と共有したばかり。※ユニット型特別養護老人ホーム設置基準第33条に則り説明 大人が大人として暮らす場所であることから、施設内行事として『喫茶店』『居酒屋』を本物らしく設え、職員が店員となって運営している。また、そこにご家族の参加もあり、非日常を送っている。	ユニットケアの手法を用いる上で、最低限その方に対する個別ケアの実施は前提と言える。その方の食事の時間、好きなもの、嫌いなもの、食べたい場所。排泄の場所、タイミングなどおむつに頼らず出来るだけトイレに座ってほしい。起きる時間、寝る時間など。入居者にとって信頼できる支援員になることは、まず顔なじみの関係から、ユニット毎(家毎)に固定で配置することで、入居者との関係性が深くなっていく。入居されている方から見て、安心してお願いができる存在となりやすい環境がある。また、ちょっとした心配事(ヒヤリハット)などキーパーソンより、ご家族に対してお連絡も都度都度ご報告をさせて頂き、共有を図っている。コロナ禍においても、面会条件を明確にしていた。現段階を大きな制限はないが、ICT(タブレット 公式LINE)を活用することで、出来るだけご家族へのこまめな連絡と、ご家族のタイミングでの確認が取れるように活用している。	・認知症カフェ開催会場として活用頂いている。 ・介護サービス相談員の方を受け入れ、入居者の声、また事業所内の運営状況を客観的に評価頂いている。 ・福祉体験学習を通して、介護福祉現場の魅力を将来の福祉人材へ向け発信している。 ・当事業所の運営推進会議を通して、地域との繋がりを結び付け、地域行事への参加に対して協力を頂いている。 ・社会福祉協議会及び地域包括支援センター主催の地域見守り訓練に対する協力	・地域に対して、事業所の存在のみならず、介護保険制度、施設の役割、在宅における介護保険サービスなど、地域に対して発信していきたい。 具体的な方法として、地域に存在する区毎の勉強会、区会に参加させて頂き、発信の場が頂けると、安心して地域及び市内に住み続けることができる環境をご説明していきたい。

	<p>岩崎県営住宅から歩いて来られる施設であり、県営住宅に住んでいる方々からは高齢化してきており、地域行事を開催するのでも大変になってきている、介護に対しても不安を感じていると聞く。介護の相談が必要になったときに、気軽に立ち寄れる距離の施設である。</p>	<p>新型コロナウイルスが流行する前までは、施設内にて介護相談会の開催、地域交流会(区長・民生委員等)、地域行事への参加、近隣の方のボランティア受入などにより地域との関わりを継続的に持って取り組んできた。コロナ禍でも区長・民生委員との交流は継続している。在宅サービスから施設入所サービスまでを提供できる施設として、在宅介護から継続的に関わりを持ち、施設入所が必要となったときにも、安心して入所できる施設として取り組んでいる。</p>	<p>グループホームや認知症対応型デイサービスでは、職員配置の手厚さなど小規模施設の特性を活かして、ご利用者の状態などを把握して、寄り添い支援できる体制がある。</p>	<p>・区長・民生委員との地域交流会(コロナ禍は年2回の自宅訪問) ・地域防災訓練への参加(コロナ前)</p>	<p>・左記以外の地域行事への参加</p>
<p>所在地域の特性と言われても、小牧市の外れに位置する藤島地域は特に特性はないと思います。</p>	<p>所在地域の特性を生かして利用者様におこなっているサービスは特にないです。現在、コロナの影響で外出などの自粛をしているので、事業所の特徴である自事業所で閉じこもるのではなく、外出支援などの提供して様々な活動ができていないのが現状です。</p>	<p>1人1人の必要性に合わせたサービスは行っています。例えば病院受診の同行、病院の送り迎え、買い物同行、買い物代行、自宅内の環境整備(清掃、電球交換、ゴミ捨てなど)、などといった訪問内容。その方の希望される時間でのサービス利用(通い、泊まり)など、なんでもありの小規模多機能のシステムなので、利用者様が困ったことがあればそれに応えるサービスを提供しています。</p>	<p>健康体操(近所の方も参加可)現在コロナで休止 認知症カフェ 現在コロナで休止</p>	<p>災害一時避難所としての解放。 誰でも気軽に足を運べる、憩いの場。</p>	
<p>桃花台地区は比較のお元気な方も多く、社会資源も多い為、新規利用者の獲得に苦戦をしている。</p>	<p>訪問対応による、買い物同行、買い物代行。朝食・昼食・夕食の配食、弁当ではなく個別湯煎にていつもお使いの器に盛り付け提供する。</p>	<p>家族との連携も大切なことの1つです。サービスの追加やお休み連絡、緊急時の対応等も密に瞬時に行為、「ライン」を使いリアルタイムで対応しています。1週間に一度はSNSの更新を行っております。</p>	<p>よろず相談室の無料貸し出しスペースがあります。以前1度だけですが古雅4丁目の地域とコラボ企画、炊き出し訓練を行い、独り暮らしの方に手作りのおにぎりを配食いたしました。 ・避難訓練の一環として陶小学校まで徒歩移動を行いました。</p>	<p>BCP対策の模擬訓練(他の小規模事業所も含む) ・小規模多機能災害見守りネットワークの立上げ(小規模事業所間での見守り訪問対応)例えば、東部から南部の利用者宅に訪問出来ない時(風水害等)の状況時に限り近隣の小規模事業所が可否の確認等が出来る。 ・風水害等、他事業者訪問が出来るシステムの構築 ・将来的には全サービス事業所間で出来るといいなと思います。</p>	
<p>篠岡地区は幼少期より長期的にお住まいの方が多く、また桃花台地区では働き盛りの時に小牧に転居されてきた方が多くなっています。環境面では舗装道路は多いものの坂が多く、喫茶店やコンビニエンスストアも距離が離れている為高齢者の皆様にとって外出機会を得られにくい要素を感じられます。</p>	<p>外出機会が得られにくい環境面を考慮し、当事業所では運動機会を設ける様に療法士による機能訓練の他にマシントレーニングの充実を図っています。気候・天候の良い日には事業所の駐車場や庭を使用して、利用者様の状態に合わせ屋外歩行訓練を実施したり、レクリエーションも実施しています。</p>	<p>少人数だからこそ一人一人への配慮がしやすく、比較的重度の利用者様もお受け出来ている様に思われます。レクリエーションも体調不良の方等を除き全員参加型のレクリエーションを心がけており、ご家族以外の方との交流を図りやすい環境設定を行っています。デフロア内が見渡しやすく、利用者様との距離が近い為、音や会話に対して反応しやすい環境です。</p>	<p>・町内会での防災訓練への参加 ・地域の方の休憩スペースの設置(玄関横にベンチを配置) ・地域の介護情報の発信源となれるように玄関先に介護情報誌と事業所パンフレットの配置 ・随時介護相談が受けられる様に併設の居宅介護支援事業所と連携した相談援助の準備</p>	<p>・デイで行っている避難訓練に地域の方にも参加していただく ・デイサービスでの取り組みをもっと地域の方に知っていただく ・他地域密着サービスとの情報共有</p>	
<p>自然豊かで、田園風景が広がり、五条川の桜もきれい。</p>	<p>3時間15分のリハビリに特化したデイなので、気候の良い日はマン等のトレーニングの合間に外へ出て歩行訓練をしています。景色を見ながらの歩行訓練は、心が開放的になれるようで、日頃言葉の少ない方も、昔の話などよくお話していただけます。また送迎の際は景色の綺麗な道を選択してお送りさせて頂いています。</p>	<p>心身共に自立している方が多いので、一人で抱え込み悩むこと、困っていることはないか、個別で気軽にお話できる時間や、スペースを確保しています。</p>	<p>地域の健康体操に参加しています。</p>	<p>今後は自宅でできる簡単な口腔体操等の情報を紙面でお渡し出来るよう準備したいと思っています。また、月に1回土曜日は一般の方にトレーニングマシン等を体験して頂いたり、デイの雰囲気を感じて頂きたいと考えています。</p>	
<p>・2025年には人口の33%が65歳以上(1980年は9.1%)、25%が75歳以上になり、認知症が470万人になると推測されている。また、年間死亡者が増え続け2040年にピークを迎え約170万人に上るとも言われている。小牧市は現在、25%から確実な上昇傾向にある。しかし、開設地である篠岡地区の高齢化率を見ると2033年には43%と異常な上昇を示している。また、認知症高齢者も要介護者数が増えることにより、現在では約2,500人(小牧人口の60人に1人)でもある。したがって、全国同様小牧市も今後は少子高齢認知症多死社会になることが確実に予測される。 ・小牧市市民1人あたりの病床数や医師数の減少。また在宅医療を推進している医師も不足しており、在宅で医療を受けたいと考えている市民にとってより一層医療の充実が望まれている。 ・世帯人員の減少、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の増加など世帯構成が大きく変化している。要介護高齢者が増加することで、老老介護の問題などが今後生じてくるのが予測される。 ・区/自治会の加入率が低下し、子ども会や老人クラブの活動も活発さを欠き、地域におけるつながりが希薄化している。そうしたなか、特に高齢者に対し地域のよりどころや看護、介護の助言ならびに支援方法の十分な説明などを行う必要がある。</p>	<p>訪問看護が主体に看多機(看護小規模多機能型居宅介護)を運営しています。認知症利用者に対し、認知症認定看護師をはじめ、在宅看取りに力を入れ活動しています。また、当事業所では、病院から在宅で安心して移行できるような医療的ケアを中心に、在宅看取りの懸け橋として受け入れを積極的に行っています。</p>	<p>・看多機の普及(認知)活動 ・健康状態の維持向上支援 ・在宅看取りへの強化 ・病院から退院した時点からの移行支援</p>	<p>・施設イベントの際の参加呼びかけ</p>	<p>・災害時のシュミレーション(いざとなった際の介護支援) ・医療ケアが必要な方々に対し、一時的避難場所(停電時の充電システム)</p>	

その他